

# 川崎ウイングスコーチ会活動指針について

平成4年12月5日  
コーチ会 監督  
鈴木 哲夫

## 1. はじめに

川崎ウイングスフットボールクラブ（以下、K.wings）コーチ会の活動目的、方針を定めるにあたって、今現在、構想として考えている事を述べます。勿論、これらは最終決定事項ではなく、不備な点があれば状況に応じて柔軟に変更してゆくべきものと考えております。

### 1. 目的

コーチ会の目的としては、当然、子供達にサッカーを教える事が目的となりますが、単にサッカーの技術のみを教えるだけがコーチの役割ではないと考えております。

一番重要な事は、子供の可能性を伸ばしてあげる事だと思います。子供はそれぞれ様々な個性を持っており、また、体の発達にもそれぞれ個人差があります。個人個人にあった指導が出来る事が最高なのですが、実際には何人かの子供達をまとめて指導する形態をとらなければならぬ以上、上手な子供とまだまだの子供が1つのグループにならざるを得ない事は仕方のない事ともいえます。しかし、コーチとして考えなければならぬ事は、上手な子供をよりうまくさせる事より、むしろ、まだまだの子供達の可能性を発見し、それを伸ばしてあげるような指導が重要であるという事です。

それでは、子供達の可能性を伸ばしてあげる為には、具体的にどのようにすればよいのでしょうか？ 以下、コーチとしての注意すべき点と併せて述べてゆきたいと思っております。

### 2. 誉め方と叱り方

子供の可能性を伸ばすには、子供達をとにかく誉めてあげる事です。例えば、リフティングが3回しか出来なかった子供が5回出来るようになった時、たいいの子供はコーチに報告に来ます。その時に一緒に心から喜んであげる事、そして、誉めてあげる事がその子供にとっては一番うれしく、また、励みにもなるのです。どんな些細な事でもよいですから、今まで出来なかった事が出来た時や、うまくいった時（例えばヘディングでもシュートでも）には必ず子供達を誉めるようにすれば、その事で自信が付き、どんどん上達してゆきます。

これは一見簡単そうですが、実は結構難しい事です。何故ならその子供がどの程度の技術を持っているかを常に把握していないといけないからです。例えば、リフティングを普段は10回できる子供が（回りの子供が5回の時に）7回出来た時、その子供を誉めると、その子供はそれでいいやという気持ちになり、向上する意欲がなくなる事にもなりかねません。コーチとして何人かの子供達を見る上で注意しなければならない第1点目はこの点です。

また、これも私の経験なのですが、他人の子供は誉めてあげられるのですが、自分の子供に対してはなかなか誉めてあげることが出来ません。むしろ、子供達を叱る時、時にはあえて自分の子供を叱る形で注意をしてしまう事がよくあります。これは子供にとってはいい迷惑で、コーチとしては絶対避けなければならない事と考えます。難しい事なんでしょうが、グラウンドにコーチとして入ったら、親子の関係を忘れるつもりにはなっていないけません。これが注意する第2点目です。ですから、K.wingsではヘッドコーチは自分の子供以外の学年を受け持つような組織にしたいと思っております（後述）。

このようにして、子供を誉めてあげる事により、子供達はやる気を出し、サッカーが楽しくなるようになります。基本的には、親が強制してサッカーをやらせられるのは低学年の、まだ訳も分らない年齢頃までです。多少の興味があってサッカーをやるだけなら、子供達にやらせたいという気持ちで、子供達の興味を継続させ、なるべく早い時期にサッカーをやる気を出させるよう指導（具体的には誉めて上げる指導）を心がけて頂きたいです。

では、叱り方はどのようにしたらよいのでしょうか？

一番よくないのは感情で怒る事です。子供は所詮子供なので、言う事を聞かないのが当たり前位の気持ちでいるのが度よいと思います。しかし、あまりにもふざけた言動が繰り返される場合は当然怒らなければなりません。練習時にここまでする怒りや叱り方は、常にその基準を守り子供達に徹底してゆく必要があります。同じ事を繰り返しては駄目です。コーチの感情で子供を叱るのは絶対に避けて下さい。これが注意の第3点目です。

また、昔、このようなコーチもいました。自分の基準で子供達を判断し、その基準に達しないプレーをしたら怒ったり、ゲーム中に指示通りのプレーができなかったら怒ったりして子供を怒らしたりしておりました。これは、子供達のやる気を失わせる最低の叱り方だと思っています。ゲームにおいても練習においても自分（コーチ）の指示通りに子供が動かなかつた事に対して怒るのは、コーチが自分の満足の為に子供を駒として動かしているからであって、子供の可能性や自主性を伸ばしてあげる、本当に子供達の事を考えて怒る事の対極に位置する行為です。

ゲームや練習の中で子供達がミスしたり、うまく出来なかった時は叱るのではなく、どうしたら出来るようになるのかを教えるのがコーチの役目です。

では、具体的にどのような時に叱るべきなのでしょう？

唯一、名指しで注意を与えてもよいと思われるのは怠慢なプレーです。回りの子供達が一生懸命やっているのに、一人だけだらだらしているような時には名指しで注意すべきでしょう。そして、叱る時は何故叱るのかをはっきり子供に教えるべきです。この場合、一人が怠慢なプレーをする事により、回りの仲間が迷惑する事を厳重に教えるべきです。サッカーは団体競技であり、一人でやっているスポーツではない事、そして、一人が怠慢なプレーをする事により、他の仲間は10人で相手の11人と戦わなければならない事等を言ってお知らせする必要があります。

次に、挨拶や礼儀を失っている時は注意すべきです。グラウンドに一步入ったらお父さんではなくコーチなので、口の利き方や礼儀には注意を与える必要があります。また、高学年のお兄さんに対して呼び捨てにしているような場合も同様に注意する必要があります。始まりと終わりの挨拶もそうですが、最低限の礼儀をわきまえる為にも、低学年のうちから注意をしてゆく事が重要であると考えます。

この項の最後に、誉め方と叱り方の比率（私が実践しようとしている）を参考までに述べたいと思います。

- 1) 3回誉めて1回叱る
- 2) 3回叱るうち、1回は本気で怒る。

☞これは、本気で怒る時がないと、子供がこちらをなめてしまうからです。  
☞やはり親であり、コーチである以上、真剣に怒る時も必要だと思っています。

### 3. 教え方

技術論は別の機会にあらためてカリキュラムとして作成するつもりですが、とりあえず、お父さんコーチに理解して頂きたい事は山本五十六の有名な次の言葉です。

ヤツテミセ、	(手本を示し )
イッテキカセテ、	(言葉で教え )
サセテミセ、	(実際にやらせて )
ホメテヤラネバ	(評価してあげる )
ヒトハウゴカシ	(そうしないと人は動かない)

こうして書いてみるといかにも古くさく、教訓めいてしまっていますが内容は今の世の中でも十分使える、極めて的を得た言葉だと思います。

まず、最初の『ヤツテミセ』ですが、これはコーチに成り立てのお父さんではなかなか自信が持てない部分であると思います。しかし、低学年(特に幼稚園から1、2年まで)で教える必要のある技術的な要素は極めて少ないと思われ、ボールの蹴り方、止め方のいくつかのパターンを覚えれば十分『ヤツテミセ』られます。むしろこの時期に大切なのは、とにかく楽しくサッカーをさせる事であり、サッカーを好きにさせる事であると考えます。その為に『ヤツテミセ』られる事はコーチ自身がサッカーを楽しみ、母親を含めた家族全員でサッカーを楽しむ事だと思えます。それ故、K.wingsでは、お母さんにも一緒にやってもらい、みんなでサッカーを楽しもうという方針を取っております。そうやって家族全員が楽しんでいる姿が低学年の子供にとっての最高の『ヤツテミセ』であるような気がしております。

勿論、楽しむばかりではなく、技術指導もしなければなりません。次の『イッテキカセテ』にも通じますが、ある程度の技術論と実際の技術を得る為に、コーチ会の中での研修会を適時開催したいと考えております。今後作成されるカリキュラムと、研修会の開催までは各自サッカーの本等でルールや基本的な技術を取りあえず『勉強』しておいて頂けると非常に助かります。そうする事により少なくとも『イッテキカセ』る事は出来ると思えます。

また、実際の練習においては私をはじめとする、何人かの経験者の指導方法を参考に、教え方を研究して、まずは技術以外の部分で自分ならばどうするかを考えて頂けるとよいかと思います。

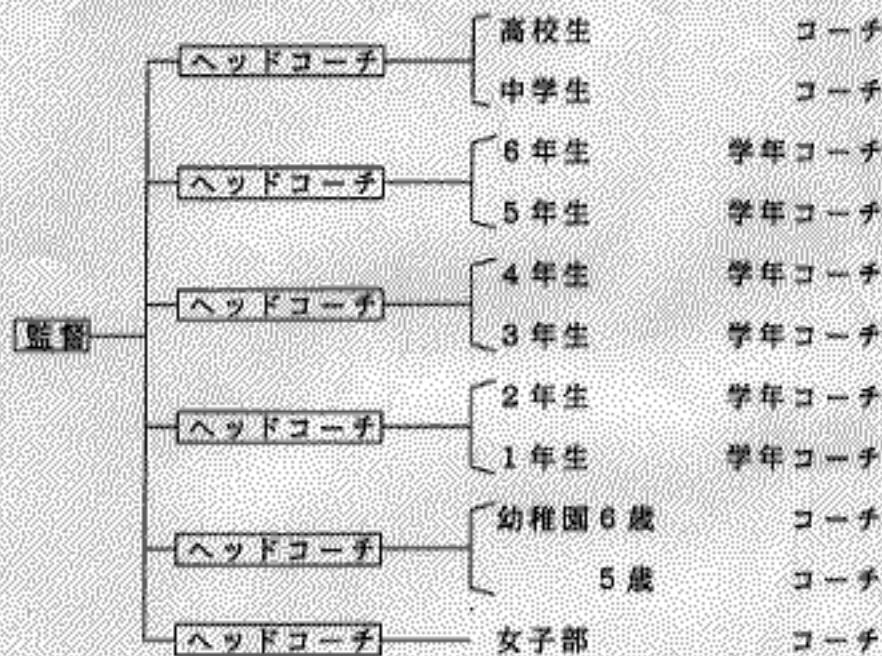
まずは、いかに子供を楽しませるかから始まります。そしてそれは、父親であればサッカーの経験の有無に関わらず可能であると信じております。

そして、先にも述べましたが『ホメテヤラネバ』いけません。これが多分一番重要で、各コーチが注意すべきポイントだと思えます。一人のコーチが何人もの子供を見る場合、どうしても目が行き届かない所がでてきます。それを他のコーチがフォローしてあげられればチームとして、コーチ会として最高の状態だと思えます。

細かい技術論や指導方針以前に、大前提であるチームの意識が同じであるからこそそれが出来るのであり、私としてはそういったチームおよびコーチ会を作りたいと考えている次第であります。さらにいえば、このような事はサッカーの経験の有無にまったく関係なく、共通の意識を持った親ならば十分に可能であると思っています。

#### 4. 組織

基本的に今まで述べてきました通り、自分の子供以外を担当として見る形を取りたいと考えています。組織の概要は以下の通りです。



#### ● 役割分担

監督・・・ヘッドコーチに対し、チームの全体に関わる指導方針等の伝達  
技術指導・全体カリキュラムの作成および通達

ヘッド・・・各学年コーチに対する指導方針の伝達、技術指導  
コーチ 全体カリキュラムに乗っ取った具体的練習方法の作成とコーチへの指示

コーチ・・・子供達への指導